

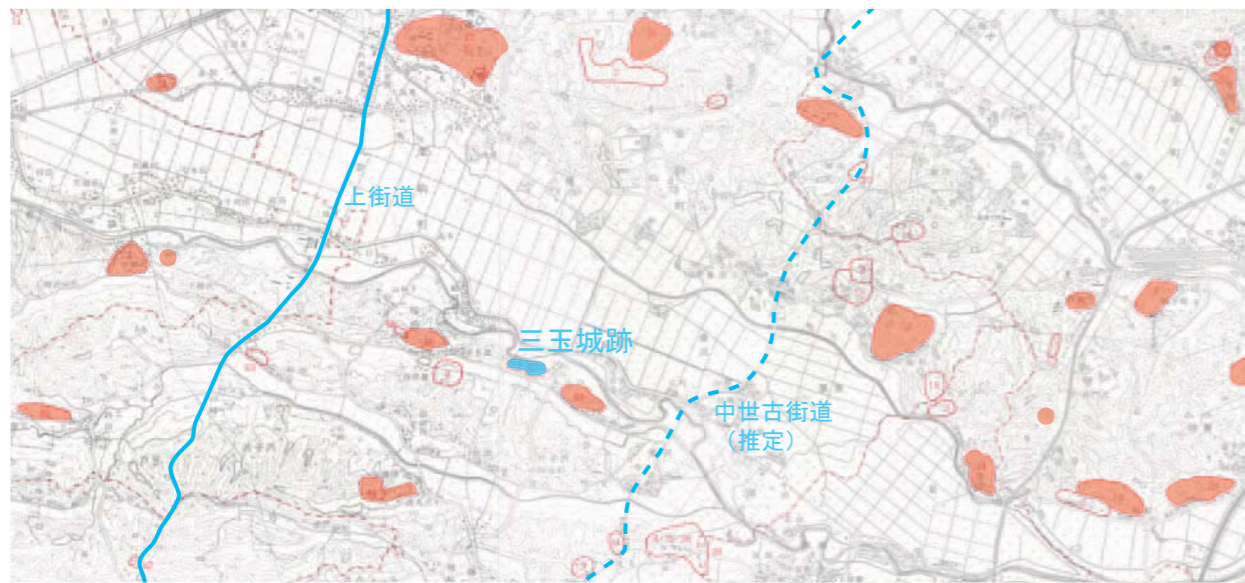
三玉城跡発掘調査現地説明会資料

平成18年9月9日（土） 午後1時30分より 栗原市教育委員会

調査要項

遺跡名	三玉城跡（みつたまじょうあと、遺跡登録番号43067）		
所在地	宮城県栗原市栗駒桜田字中有賀		
調査原因	高压線鉄塔（特別送電線北上幹線）新設工事		
調査費用	原因者（東北電力株式会社）負担		
調査主体	栗原市教育委員会		
調査協力	宮城県教育庁文化財保護課		
調査期間	地形図作成	平成17年3～4月	
	仮設道部分の確認調査	平成17年8月23、24日	
	鉄塔部分の事前調査	平成18年7月14日～10月上旬（予定）	
調査面積	約1,000㎡		

（1）三玉城跡周辺の中世遺跡



第1図 三玉城跡の位置と周辺の城館跡

『宮城県遺跡地図』（176集、平成10年刊行）を改変

- 三玉城跡周辺には多くの城館跡がある。
→すべてが同時期のものではないが城館跡の分布密度は比較的高い。
- 要因として次の2点が考えられる。
 - ①三玉城跡周辺を街道が通り、古くから交通の要衝であったため。
 - ②葛西氏と大崎氏の領地の境界付近にあったため。

第2図 戦国時代の勢力分布図（天文期頃）
（『宮城県の歴史』、山川出版社）



発掘調査地点
（裏面参照）



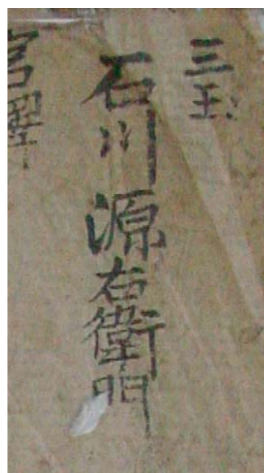
第3図 三玉城跡全体図（現在検討中の略測図）

（2）三玉城跡の構造

- 北を二迫川、南を谷に挟まれた東西に長く幅の狭い丘陵（標高約50m）上に立地。
- 遺跡範囲は東西300m、南北100m。
- 中世の城館跡で、東西方向に4つの曲輪が連なり、各曲輪は上幅10mほどの堀切で区画されている。
- 各曲輪の南側と北側の斜面には幅の狭い平場がある。

（3）三玉城跡の城主

- 近世頃に編纂された『佐沼古戦場記』の巻末「天正年中中奥筋古館主」の中に「三玉 石川源右衛門」とあり、城主は石川氏とみられる。



第6図 『佐沼古戦場記』にある「三玉 石川源右衛門」
（登米市歴史博物館蔵）



第4図 西上空からみた三玉城跡



第5図 西上空からみた調査地点

(4) 発掘調査成果

- ①調査地点 遺跡範囲の西端付近。最も高い所が標高約52mで、北の二迫川との比高差が約27m、南の水田面との比高差が約25mある。
- ②大規模な土木工事跡 曲輪1、平場、切岸、堀切2条、土塁3条で、館跡を造成した大規模な土木工事の痕跡を確認した。このうち曲輪・平場は切土（切岸）・盛土による大規模な造成工事によって作られていることが判明。曲輪1は3条の土塁と2条の堀切によって西からの敵襲に厳重に備えている。3条の土塁は外側の土塁3から内側の土塁1に向かって高くなるように、守りやすく作られている。各土塁は旧表土の上に0.6～1m盛土し、旧表土以下を切岸・堀切を兼ねて切土し、土塁をより高く見せるよう工夫している。
- ③曲輪1で検出した遺構 掘立柱建物跡、鍛冶遺構、焼成遺構、土壇、ピット、溝跡などを検出。
- ④出土遺物 城館跡の時代…永楽通宝（中国銭。1408年初鑄。表土出土）。
城館跡以前…古代の土師器、縄文時代の土器、石器。



曲輪1、堀切1、土塁2
曲輪1より堀切1底面までは8mある。



曲輪1調査風景
建物跡、鍛冶遺構、焼成遺構、土壇などを確認。現在精査中。



堀切部分の調査風景



土塁3の断面
基底幅2.5m、最大1.5m。



堀切2の断面



土塁2の断面

斜面部分は地山を削りだしており、頂上部付近では1m盛土が行われている。



曲輪1の整地層
曲輪の西側から南側では幅2m、深さ1m（最大）の範囲を盛土することで平坦面を広くしている。



堀切1の断面



平場部分の堀切1
平場部分の堀切は東に向きを変える。2回掘り直しが行われ、3時期の変遷がある。

(5) まとめ

- ① 三玉城跡は二迫川右岸の丘陵上に位置する中世の城館跡です。堀切で分断された4つの曲輪が東西に連なっています。
- ② 調査地点は城跡の西端部にあたり、調査以前から曲輪、平場と土塁、切岸、堀切を明瞭に確認できましたが、発掘調査の結果、これらの特徴や大規模な土木工事のあり方がさらに明確になり、敵から攻められないようにしている様子がよくわかりました。
- ③ 宮城県内では城館跡の広範囲を面的に調査した例はあまりありません。今回の発掘調査は城館跡を守るための防御施設の特徴や作り方が具体的にわかる大変貴重な調査例になりました。